



強みをつくる②

2学期が始まりました。4年生の就職希望者は、夏休み中に会社見学を終え、応募企業を決定して、履歴書も書き終わりました。来月5日には応募開始です。

さて、第2号では、「強みをつくる①」として、検定などに挑戦し、客観的な実力の証を残すことについてお勧めしました。今回は、「強みをつくる②」として、調査書に記載される最重要項目である「出欠」についてお話しします。

信頼して役割を与えてもらえる人

一人一人程度の差はあるものの、誰しも体や心の不調から休まなければならない状況になってしまうことはあります。人が生きていく上で、休むことはとても大切です。

しかし、その一方で、社会の中で生きるためには、信頼をして役割を与えてもらえる人になることもとても重要です。社会の中で役割を持って初めて経済的な自立が叶うからです。そしてそのためには、この人は与えられた仕事を責任を持ってやり遂げる人だ、ということを周囲に信じてもらう必要があります。

そこで必要になるのが、**仕事に穴を空けない**（おやみに欠席遅刻をしない）ことです。



休日を上手に使う

高校生には、もともと休日がたくさんあります。特に定時制では平日の日中にも登校しなくてよい時間帯が多くあります。アルバイトをしたり心身を休めたり趣味を楽しんだりする時間は、やりくりすれば計画的に作れるはずですが、休日を利用して体調管理をしっかりすれば、わざわざ授業のある時に欠席や遅刻をしなくても対応できることも多いのではないのでしょうか。

これは社会に出てからも同様です。そもそも、やむを得ない事情がそうそう頻繁に起こるようでは、通常の仕事をするのは難しいということになります。その人が休むたびに、予定外の仕事を負担することになる人や、仕事の相手(取引先やお客様など)にたびたび迷惑をかけることになるからです。だから社会人が有給などで休む時は、事前にスケジュール変更して休む日の分の仕事を先に済ませておくなど、周囲に配慮した工夫をするのが普通です。

何が言いたいかというと、心身とスケジュールを管理して、「**学校を欠席しない**」ために工夫をする習慣を身につけておくと、卒業後、信頼される社会人となるための大きな強みになる、ということです。

多くの企業の採用担当の方から、調査書の記載内容で最も注目するのが「欠席日数」と「欠席理由」だとよく言われます。欠席せずに毎日学校に通えたという事実は「心身とスケジュールをしっかり管理する力」があることの客観的な証明になるからです。

とはいえ、心身の不調だけでなく家庭の事情など、それぞれに様々な事情はあり、すぐには欠席をなくせない、という人もいるでしょう。

ただ、進級するにつれ欠席を減らし、卒業後は自分の都合で急に休むことなく働けるよう、自分なりに**工夫して休みをコントロールする力**をつける努力はしてほしいと思います。

